

個別化，集団化するとは，個々に作成する個別の指導計画とその児童生徒が所属する学習集団の全体指導計画が，どのような関連性や整合性をもって授業実践に移されていくのかを事前に整理しておくことである。具体的には図1のように，個別の指導計画と全体指導計画の双方向性の関係を重視しながら，指導目標を個別化し，内容・方法，評価について，単元レベルから授業レベルまで児童生徒一人一人に合わせてとらえ直すことが個別化することであり，同時にそれらを集団全体の活動として構造化していくことが集団化することである。

2 単元レベルの個別化と集団化

児童生徒の生活上の課題にはいろいろなものがある。例えば，「遊びをしよう」，「運動会をしよう」，「にとまろう」，「修学旅行に行こう」などである。単元の全体指導計画では，学習集団の全体目標を設定し，これらの生活上の課題を成就するために，必要な一連のまとまりのある活動，例えばそのための計画，準備，練習，実施，反省といった学習活動を組織していく。このような指導目標，学習活動の設定の過程では，以下に示す個別化，集団化の視点が重要である。

(1) 指導目標の個別化

指導目標を個別化するに当たっては，全体目標と個人目標を図2に示すような関連性をもって整理しておくことが必要である。まず生活単元学習の年間指導目標を，児童生徒の実態を基にして個別化し，年間個人目標を設定する。次に，各

単元の全体目標に基づいて，単元の個人目標を設定する。この際，単元の個人目標は，児童生徒の生活単元学習の年間個人目標を基に具体化していくのである。

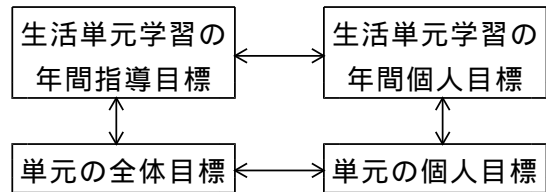


図2 全体目標と個人目標との関連

(2) 学習活動の個別化と集団化

全体指導計画では，単元の全体目標に基づいて，その課題解決に向けた，児童生徒の自然な生活のまとまりとして学習

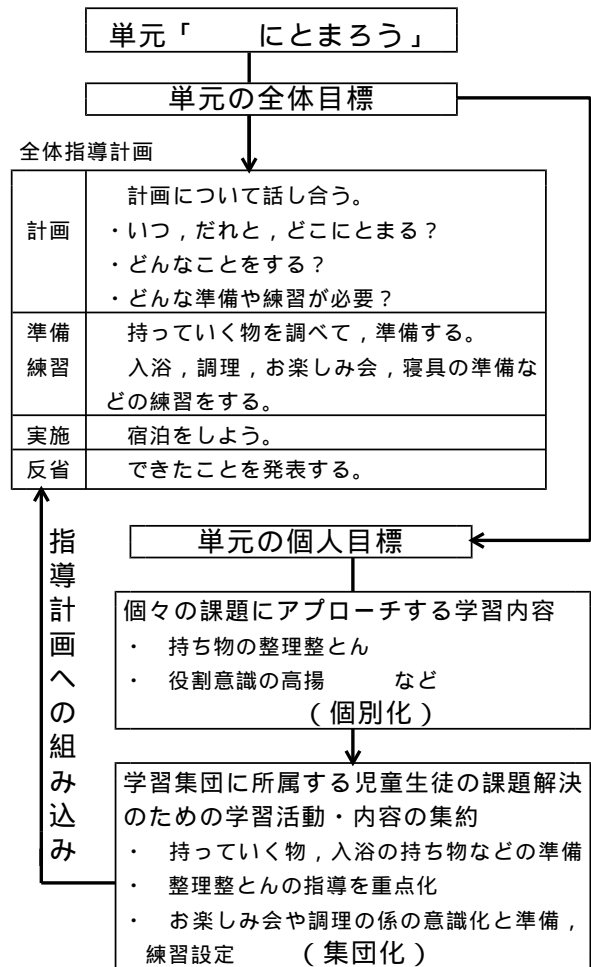


図3 目標，学習活動の個別化，集団化

活動を構造化していく。例えば「 にと
まろう」という課題であれば、泊まるための
自然な活動のまとめりとして図3のよう
な活動が考えられる。同時に、児童生徒
一人一人の個人目標を達成するとともに、
個別の指導計画に基づいた個々の課題を解
決していく学習活動を設定し（個別化）、
それを集約して全体指導計画に組み込んで
いく（集団化）が必要である。

生活単元学習では、毎年同じ単元で指導
される場合が多い。学習集団の児童生徒の
課題やこれまでの学習経験などを踏まえな
がら指導計画の個別化，集団化を繰り返す
ことを通して，教育課程，全体指導計画の
改善・充実に努めていくことが重要である。

3 授業レベルの個別化と集団化

日々の授業レベルでは，単元レベルの個
別化，集団化を目標，学習活動・内容，指
導方法，評価で更に具体化していく。

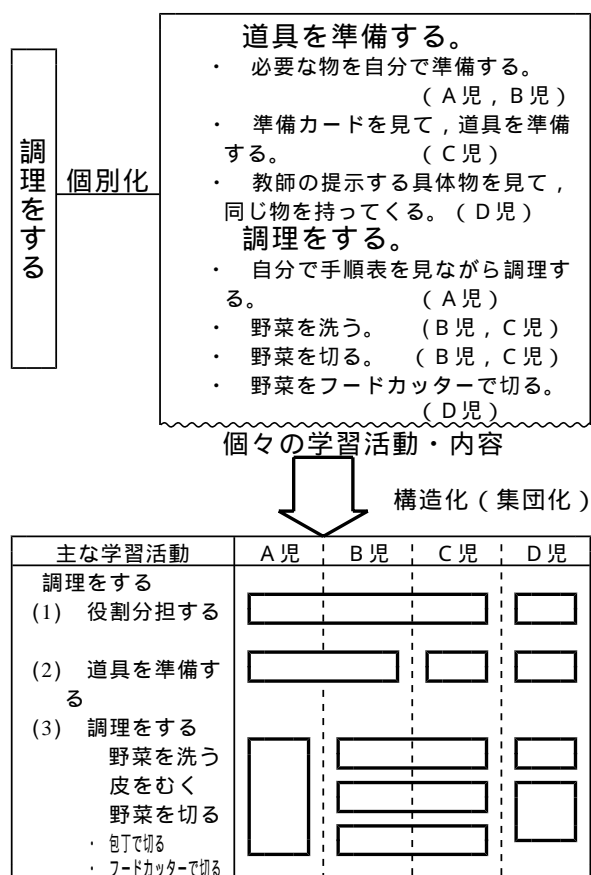
(1) 目標の個別化

日々の授業においては，単元の全体目
標を基に，個別の指導目標を焦点化する
必要がある。生活単元学習は，長期にわ
たる単元の場合も多く，また学習活動が
多岐に及ぶ。そのために抽象的な誰にで
も当てはまるような目標ではなく，一人
一人に応じた具体的な個人目標を設定す
ることが大切である。

(2) 学習活動・内容の個別化と集団化

各単元の指導内容を児童生徒の実態，
目標に関連して精選し，学習活動を一人
一人に応じて段階的に設定する。

例えば，調理に関する学習では，「調



[] は学習活動を示す。

図4 学習活動・内容の個別化と集団化

理に必要な物を準備する」，「調理をする」，
「会食をする」，「片付けをする」などの活
動が考えられる。その中で児童生徒の実態，
本時の目標との関連から，学習活動・内容を
図4に示すように，「手順表を見ながら調理
する」，「野菜を切る」，「フードカッターに
野菜を入れる」などのように更に段階的にと
らえ，具体的に設定していく。そして，本時
のテーマに沿って，一人一人の学習活動を設
定し，併せて集団で行う学習活動の中に構
造的に位置付け(集団化)，共同して取り組
めるようにしていくことが大切である。

生活単元学習は，集団で課題意識を共有し
ながら取り組むことにより，実際の力を獲

得していくことをねらいとしている。学習活動の集団化に当たっては、児童生徒が目標を共有し、集団の活動の高まりや協力して取り組む充実感などを感じ取ったり、相互にかかわり合う過程で社会性の伸長やコミュニケーションスキルを獲得したりすることなどを考慮しておくことが大切である。

(3) 指導方法の個別化

児童生徒の実態を考慮しながら、以下に示すような観点を基にして、児童生徒が主体的に学習活動に取り組むための指導方法を個別化し、実践していく。

- ・ 教材・教具の工夫
- ・ 学習集団の構成の工夫
- ・ 働き掛けの工夫
- ・ 指導体制の工夫
- ・ 学習環境の設定の工夫
- ・ 学習活動の見通しがもてるための工夫
- ・ 学習成果が分かるようにするための工夫

例えば、「道具を準備する」学習活動では、写真カードや絵カードの視覚的情報提示を行う。教師が具体物を提示し、児童生徒が自分で選択可能なように2～3品の具体物からの選択場面を設定する。「調理をする」活動では、レシピカードにシールをはって手順を自己確認する。手本となる友達とグルーピングし、活動順を決めておくなどがある。指導方法の個別化は、単に「言葉掛けをする」、「賞賛する」といった留意点レベルのものではなく、一人一人の状況に応じて、児童生徒が「できる」ようにするために具体的な計画を立てていくことが重要である。

(4) 評価の個別化

長期、多岐にわたる学習が展開されることの多い生活単元学習の場合、単元終了後の総括的な評価だけではなく、毎時の授業終了後の形成的評価を積み重ねていくことが大切である。

毎時の形成的評価では、設定した個別の指導目標の到達度や手だてなどを評価し、個別化に向けた次時への授業改善を図っていく。そして、単元終了後の総括的評価では、形成的評価のデータを基に、単元の個人目標の達成状況、支援の在り方について取りまとめ、個別の指導計画の評価とともに、全体指導計画の課題や改善点、次の単元で取り組むべき課題などについて明らかにしていく。

生活単元学習は、生活上の課題を成就するための活動に、児童生徒一人一人が主体的に取り組む、その結果として現在、そして将来の生活で実際に役立つ力を習得していこうとするものである。安易に従来の学習活動を繰り返すのではなく、障害の状態や発達の状態に応じて一人一人の児童生徒の学習活動を充実させ、すべての児童生徒が生活上の課題を共有しながら、生き生きと活動し合う学習を実現していくために、個別化、集団化の両方の視点から常に授業改善を図っていきたい。

【引用・参考文献】

- ・ 文部省『生活単元学習指導の手引き』慶應通信株式会社 昭和61年
- ・ 佐藤慎二「授業における個と集団」2005
発達の違いと教育 573 日本文化科学社

(特別支援教育研修課)